

地域内外の多様な人材を巻き込んだ「土地利用」の検討

たてやままち
〔富山県立山町〕

新規就農	企業参入	6次産業化	農地中間管理機構
粗放的利用・スマート農業	鳥獣害対策	地域・集落の共同活動	その他

1. 地域農業の状況

- 当地区は、立山町の西側に位置し、中央には立山黒部アルペンルートにつながる富山地方鉄道が走っている。
- 作付面積約400haのうち、約65%で食用米、15%で飼料用米が作付されている。
- 担い手農業者の高齢化の進行、山際の鳥獣被害の発生、一部、ほ場整備未実施などから、保全管理のみ行っている農地が多い。

【富山県】

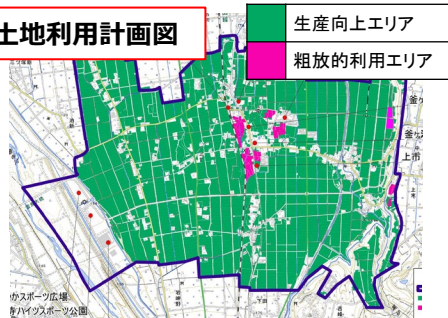


立山町釜ヶ淵地区

地区の課題と対応方向

- 釜ヶ淵地区は、民家や線路に挟まれ、狭く形が整っていない農地が多く残る地域である。
- 大型の農業機械が入れないため効率的な営農活動が難しく、担い手農家も引受けが難しい状況。
- 加えて農地所有者の高齢化により、農地が適切に管理されず荒廃化するとともに、鳥獣被害にも苦慮。
- これらの課題を解決するため、令和3年度に立山町が主体となり、地域の多様な人材を巻き込んで「土地利用」を考える「最適土地利用対策検討会」を開始。

土地利用計画図



地域内での話し合い



市民農園の運営



ポニーの放牧



省力作物（カモミール）



レンゲを利用した養蜂

2. 地区概要

取組主体 釜ヶ淵みらい協議会(農村RMO)

再生面積 0.6ha

作付作物 ハーブ、サツマイモ等

地区名 釜ヶ淵地区

取組年次 令和3年4月～

販路 農村RMOが運営するカフェ 等

3. 取組内容及び効果

地域内外の多様な人材が参画し、農地保全活動を通じて新たなコミュニティを形成

- 地域の話合いを通して、継続的な農地保全に向けた**土地利用計画を作成し、「生産向上エリア」と「粗放的利用を進めるエリア」に区分**した。
- 令和4年5月に**管理主体となる農村RMO「釜ヶ淵みらい協議会」を設立**。定期的に話し合いを行い（R5年度：13回）、省力化作物等の作付けや管理について関係者と連携のもと取り組んでいる。**地域おこし協力隊や移住者も参画したことで、荒廃農地を整備し、放牧（30a）及び蜜源作物（レンゲ等 17a）、省力作物（カモミール 13a）の作付け**に取り組んだ。農地保全活動を通じて、**人と人が繋がる新しいコミュニティが形成**された。
- 遊休農地を活用した**市民農園（釜ヶ淵コミュニティガーデン）**を運営し、ジャガイモやサツマイモ、とうもろこし、すいか等の作付けを行った。また、**民間企業等の外部組織と連携**しながら、定植・収穫作業や草刈り等の管理作業をしている。
- R5年度には、旧農協倉庫を改装した**地域の拠点となる施設「釜ノ蔵」を開設**。カフェの運営やイベント等を企画し、**人を呼び込む取組みを実施**している。



農用地保全に向けた地域の共同作業



地域交流拠点施設の整備



農園で収穫した野菜の販売



農園で収穫した野菜を利用したカレー

活用した支援策 R3～ 農山漁村振興交付金（最適土地利用対策、最適土地利用総合対策）（国）
R4～R6 農山漁村振興交付金（農村型地域運営組織形成推進事業）（国）